

# 安泉寺ハザード会だより 5. 1号

◆3月27日～29日まで、二泊三日で能登の被災地を訪れました。高校生2名、大人3名の5人が参加しました。今回は2日目、3月28日の報告です



2日目  
中野静梨奈（高校生）  
震災から約3ヶ月たったのにまだたくさん瓦礫が残っていた。正直想像していたより酷い状況だった。一緒に作

業をしていた方々はとても作業の効率がよく動きがスピーディだった。

今回初めてこういうボランティアに参加したけど、何をすればいいかを周りを見ながら考えて行動するのは疲れる。木は割るのが大変だったけど、水を含んだ紙？壁紙のようなものや瓦は重さがあり運ぶのが大変だった。釘が安全靴に刺さったけど貫通はしなかった。カメムシがいっぱいいてホコリとカビとカメムシの匂いでいっぱいだった。外作業なので虫も多くて終始ビビリながら作業していた。虫嫌いを克服しようと思った。

人数が多かったからか作業がスムーズに進んで最初と最後で見違えるほど瓦礫が無くなっていった。最後に土嚢袋がいっぱいかためてあって自分に対してよく頑張ったなって思った。今回は初めてで、あたふたしたり、自分から進んで作業をするまでに時間がかかったけど、次からは自分も最前線で働きたいと思った。

野呂記：高校生をはじめ、大人も初めての瓦礫撤去作業でした。しかし、作業中は夢中で仕事に没頭できました。後の爽快感は何事にも代えられませんでした！

## 2日目 土方匡紀（高校生）



2日目は宝幢寺というお寺に行き片付けを手伝いました。自分は、震災が起きてからすぐに被災地に行ったことがなかったので、今回が初めてのボランティアをすることができました。

宝幢寺は屋根がすべて落ちていて原型を留めていませんでした。それを見て私はこれからのお寺は地震などの震災に強い設計にして、今までとは全く異なったデザインのお寺を考えていかなければなら

ないと思いました。

瓦礫や壊れた壁などの木を小さくして袋に詰めるという作業を、淡々とみんなで力を合わせながら行いました。初めてボランティアをしてみても解体をしてくれている業者の人の力は凄いなど、自分で行うことで、改めて感じる事が出来ました。

## 2日目 中野 了

これまで、画面越しに被災地を見た時には、「うわあ、これは悲惨だな。大変だわ。」というような感想を持っていたと思います。

昨日被災現場を見た時にも、まだそれに近い感覚だったように思います。他人事というか、観光気分というか。

今日は被災現場に入って状況に圧倒されました。他のボランティアの方々や被災されたご家族など、他人と一緒にいた事で何とか体が動いたという感じでした。

自分の足で被災現場に立った事の大きさ、感じた事の大きさ、しばらく考えましたが、今のところ言葉になりません。



野呂記：上の写真は最後お別れの時のものです。連帯感・達成感で皆笑顔です